平成12年度

# 教育研究員研究報告書

## 幼稚園

東京都教育委員会

平成１２年度

# 教育研究員名簿

| 地区名 | 幼稚園名 | 氏名 |
|---|---|---|
| 千代田 | 番町 | ○ 野口 悦子 |
| 港 | 青南 | 中村 悦子 |
| 新宿 | 戸塚第二 | 足立 眞知子 |
| 文京 | 千駄木 | 野田 久美子 |
| 台東 | 育英 | 有吉 伸子 |
| 江東 | ひばり | ◎ 佐藤 千明 |
| 大田 | 蒲田 | 寺村 圭子 |
| 渋谷 | 広尾 | 奥田 浩子 |
| 中野 | みずのとう | 宮本 実利 |
| 練馬 | 光が丘あかね | 宮崎 信子 |
| 葛飾 | 北住吉 | ○ 佐藤 博子 |
| 三鷹 | 大沢台 | 増田 浩子 |

◎ 世話人　　○ 副世話人

担当　東京都立教育研究所幼児教育部指導主事　高木　基行

# 目　　次

Ⅰ　主題設定の理由…… 2

Ⅱ　研究の内容・方法

1　研究の概要…… 2

2　夢中になって遊び、自信をもって行動する幼児の姿について…… 3

3　主題に迫る教師の役割…… 3

4　事例研究…… 5

(1)　3歳児

事例1　教師をよりどころにして安定する場を見つけ、動き始めた事例（6月）…… 6

事例2　教師の動きをきっかけに、身近な環境に自らかかわる楽しさを感じていった事例（9月）……１０

(2)　4歳児

事例3　興味をもった遊びの中で、友達とかかわりながら自分なりに動く楽しさを感じていった事例（6月）……１２

事例4　友達と一緒に自分のしたいことを十分に楽しんだ事例　（9月）……１４

(3)　5歳児

事例5　友達を受け入れながら自分の思いを実現していった事例（6月）……１８

事例6　自分のよさに気付いて自信をもち、友達と一緒に遊びを進めた事例（１０月）……２１

Ⅲ　まとめと今後の課題

1　幼児が夢中になって遊び、自信をもって行動するための教師の役割について…２３

2　今後の課題……２４

研究主題

# 幼児が夢中になって遊び、自信をもって行動するための教師の役割

## Ⅰ　主題設定の理由

幼児は、夢中になって遊ぶ中で、好奇心をもち探究心や自ら行動する意欲を深め、友達や教師とともに過ごす楽しさを味わいながら、様々な経験を重ね、成長していく。その成長の過程で、目的を追求し、挫折や葛藤を乗り越え、満足感や達成感を味わい、自信をもって行動する幼児に育つと考える。そのためには、幼児が自ら環境に働きかけ、心と体を十分に働かせ、夢中になって遊ぶ体験を積むことが大切であると考える。

しかし、幼児の幼稚園で生活する姿を見ると、なかなか遊び出せなかったり、すぐに遊びに飽きてしまったり、友達とのトラブルで遊びが続かなかったりなど、夢中になって遊び込む姿が見られない傾向がある。また、家庭においても、過保護・過干渉・放任など、子育てに迷う姿も多く、幼児が自立し自信をもって行動することが難しい現状がある。

幼児期は、人間としての基盤をつくる大切な時期である。遊ぶ楽しさを十分に味わい、自分のしたいことに意欲的に取り組み、自信をもって行動する幼児を育てることが、自分の人生を切り開き、たくましく生きていく力を培うことにつながると考える。

そこで、幼児の内面の理解、幼児が自ら意欲をもってかかわりたくなる環境の構成、幼児の活動に応じた適切な援助等の教師の役割を明らかにしたいと考え、「幼児が夢中になって遊び、自信をもって行動するための教師の役割」という研究主題を設定した。

## Ⅱ　研究の内容・方法

### 1　研究の概要

研究のねらいと内容

・夢中になって遊び、自信をもって行動するためには、幼児自身がどのような経験を積んでいくことが必要なのかを明らかにする。
・幼児が発達に必要な経験をしていくための教師の役割を明確にし、具体的な環境の構成や適切な援助の在り方を明らかにする。

⇩

研究の方法

○「夢中になって遊び自信をもって行動する」幼児像を検討する。
○事例研究により幼児が経験している内容をとらえ、主題に迫る環境の構成と教師の援助を考察する。

⇩

まとめ

○幼児が夢中になって遊び自信をもって行動するための教師の役割

## 2　夢中になって遊び、自信をもって行動する幼児の姿について

研究を始めるに当たって、主題にかかわる幼児像を次のようにとらえた。

・興味、関心をもって自分から環境にかかわり、遊びの楽しさを十分に味わう。
・したいことに自分なりのこだわりをもって、試したり、工夫したりして取り組む。
・葛藤体験を乗り越えて遊びを創り出す意欲をもち、体験を通して、自己肯定感、自己有能感をもつ。
・一人でも、友達と一緒でも取り組み、友達と互いに認め合う。

そして、幼稚園生活の中で「夢中になって遊び、自信をもって行動する幼児」の姿は、次ページの図のように培われていくととらえた。

入園したばかりの幼児は、幼稚園という新しい生活の場に不安を感じ、周りの様子が気になり、なかなか遊び出せなかったり、どのように動いていいか迷ったりすることがある。やがて、教師や友達、場所や物などをよりどころにして安定感を得て、心を動かす魅力的な環境があると、興味や関心をもって自分から働きかけていくようになる。

そして、環境にかかわって遊ぶ中で、面白さ、楽しさを感じるとともに、自分の思うようにならない、友達に受け入れられないといったつまずきや葛藤を体験する。このような様々な感情体験を通して、教師や友達、場所や物などをよりどころにして、より遊びを楽しくしようと、障害を乗り越えてさらに環境にかかわっていく。

幼児は、このように、遊びの中で友達とかかわる楽しさ、工夫したり発見したりする楽しさや試行錯誤する楽しさなどを感じ、遊びの目的や方向がはっきりしてくると、夢中になって遊びに没頭し、豊かな経験を重ねる。

夢中になって遊び、やりとげた満足感、達成感から、「自分ってすごいな」「自分っていいな」と自己有能感・自己肯定感を味わう。こうして味わった心地よい気持ちが意欲や態度をはぐくんでいく。そして、自信をもって新たな遊びに取り組んでいく。

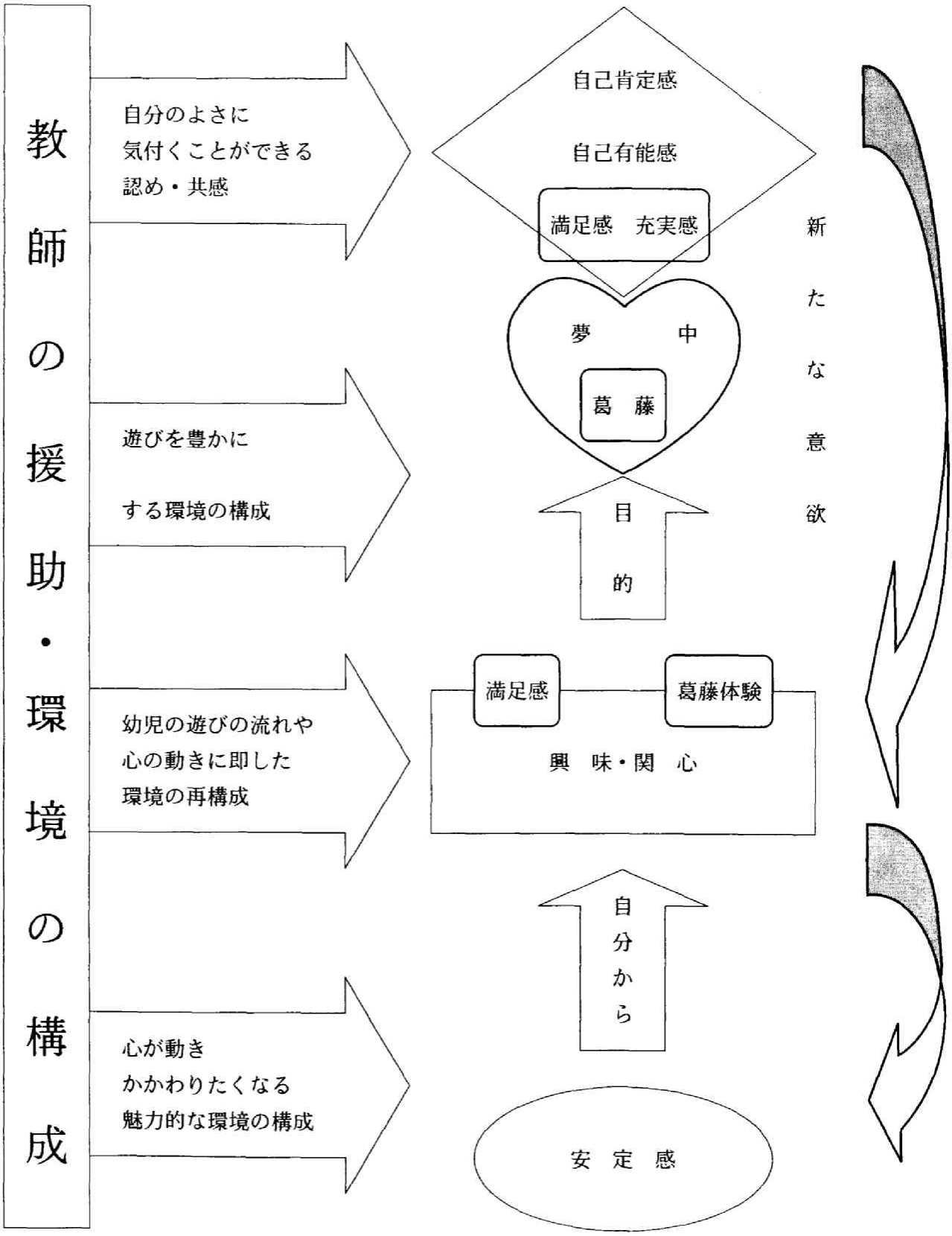
このような姿は、行きつ戻りつしながら次第に育っていくものであり、夢中になって遊ぶことが、そのまま自信をもって行動することにつながるのではない。

## 3　主題に迫る教師の役割

主題である「夢中になって遊び、自信をもって行動する幼児」を育てていくためには、幼児の生活の実態に応じて主に次のような教師の役割があると考えた。

・新しい環境への不安をもつ幼児には、心の安定を図るとともに、心を動かし、思わずかかわりたくなるような環境を設定する。
・自分なりのやり方で、環境に働きかけるようになった幼児には、心の安定を図り、活動の流れや心の動きに即した環境を再構成する。興味や関心は次々と変化していくので、環境も変化させる。
・遊びの中で様々な感情体験をしている幼児には、夢中になって遊び、遊びが豊かになるような環境を構成する。そして、発達に必要な経験ができるように環境を工夫する。
・遊びの楽しさを感じ、満足感や充実感を味わっている幼児には、活動する姿を認めたり、共感したりして、幼児が自分のよさに気付けるようにする。

# 夢中になって遊び、自信をもって行動する幼児



4　事例研究

研究主題に迫るために、次のような手順で事例研究を進めた。

(1)　研究員在籍園で研究保育を行い、観察対象児を中心とした行動観察記録をとる。
（平成１２年６月　事例１、３）

(2)　各研究員の実践記録を持ち寄る。（事例２、４、５、６）

(3)　(1)(2)の記録を、

①　観察対象児はどのような興味・関心をもっているか。

②　観察対象児の幼稚園や家庭・地域での生活体験は、記録された姿とどのようにかかわっているか。

③　観察対象児は環境（物、場、時間等）にどのようにかかわっているか。

④　観察対象児は周囲の人（幼児、教師）にどのようにかかわっているか。

の４点から分析する。

(4)　分析した結果を考察し、場や物とのかかわり、友達や教師とのかかわりなどの観点から観察対象児が経験している内容を明らかにする。

(5)　観察対象児が経験している内容を踏まえて、主題に迫る幼児を育てるためには具体的にどのような環境の構成や援助が必要であるかを考察し、「教師の役割」を明らかにする。

なお、事例１、４、５の分析で○数字の後の記号は、以下のように分析の視点の略号である。

（興）……観察対象児の興味・関心

（生）……観察対象児の生活の仕方

（環）……観察対象児の環境へのかかわり方

（人）……観察対象児の人とのかかわり方

(1)　3歳児

事例1　教師をよりどころにして安定する場を見つけ、動き始めた事例〔3年保育3歳児

| 幼　児　の　姿 | 分 |
|---|---|
| ①A児は保育室が見渡せる場でテーブルの前に座り、他児の様子や教師の動きを見ている。 | ①（生）自分の安定<br>①（興）周りの様子 |
| ②教師が「昨日のあるよ。」と、カップの入った段ボール箱を出すとA児は「一人でやりたい。」とカップをテーブルに並べはじめる。 | ②（興）教師が出し遊びを始め |
| ③B児が箱からカップを出すと、A児「いらないの。」と投げる。 | ②（環）空カップを |
| ④教師が「一人でしたいの。じゃあお客さんになって買いにくるね。」「なに味がありますか、いちごかな、メロンかな。」と言うとA児は「もっといろいろ作ろうかな。」と答える。 | ②③（人）自分の思<br>②③⑦（人）一人で<br>③⑦（人）自分の思る。 |
| ⑤A児が教師に「はい。」と、カップを手渡す。教師が「おいしいですね。」と答えるとうれしそうに笑う。 | ④（人）教師の言葉 |
| ⑥テーブルの前に来たC児の言葉を、教師が「何屋さんですかって聞いてるよ。」と伝えると、A児は「かき氷屋さん。」と答える。教師が「何がいいですか、いちごもありますよ。」とC児に言うと、A児は「はい。」とC児にカップを渡す。 | ⑤（人）自分から教を感じてい<br>⑥（人）教師の手助 |
| ⑦教師がいなくなり、C児がカップを重ねるとA児は「やらないで。」と言って、再び並べ直す。 | ⑥（興）遊びの楽し<br>⑥（生）お店ごっこ |
| ⑧教師が来て「レモンがいいですか、いちごですか。」と折り紙をちぎって渡そうとすると、A児は「いらないの。」と受け取らない。 | ⑧（環）教師が提案（自分のイ |
| ⑨そばを離れた教師に向かって、A児は「いらっしゃい。」と何回も大声で呼びかける。 | ⑨（人）教師に自分<br>⑨（生）遊びのイメ |
| ⑩教師が来て「お金があれば買えるかな。」と置いてあった折り紙を渡すと、A児は受け取ってカップを教師に渡す。 | ⑩（生）折り紙をお<br>⑩（人）教師が来て |
| ⑪教師がいなくなると、A児は折り紙を折って教師のところに行き、「お手紙です。」と渡して、急いで戻る。 | ⑪（環）折り紙を手<br>⑪（人）教師に来て |
| ⑫教師が「今日は大サービスですって。」と言いながらA児のところに来て「いちごください。」と言うと、うれしそうにカップを渡す。 | ⑫（人）自分の思い対応してく |
| ⑬教師がままごとのスイカをカップに入れると「これはいらないの。」と放り投げる。教師が携帯電話を手渡してそばを離れると、一人で電話を使う。 | ⑬（興）教師が提示<br>⑬（環）携帯電話の<br>⑭（興）他児のして |
| ⑭D児が段ボールの電車に乗ってそばに来たのを、じっと見ている。 | ⑮（生）場を離れる |
| ⑮教師が来て「A君も乗る？」と聞くと、「かき氷屋さん取られちゃう。」と答える。 | ⑯（生）自分の場を<br>⑯（人）教師が、自ことで安心 |
| ⑯教師が「看板作ってあげる。」と“おやすみ”と書いた紙を張ると、安心して段ボールの電車に乗って走り出す。 | ⑯（興）自分から興 |

6月〕

| 析 | 経験している内容 |
|---|---|
| する場がある。<br>や人の動きをよく見ている。<br>た空カップで昨日の遊びを思い出し自分からる。<br>見立てて使う。<br>いを教師や周りの幼児に言葉で表す。<br>したいという思いがある。<br>いと違うことをする他児のかかわりを拒否す<br><br>を受け、遊びのイメージが広がる。<br><br>師に働きかけ、受け入れてもらったうれしさる。<br>けを受け、他児とのやりとりをする。<br>さを感じ、言葉で表す。<br>のやりとりが分かっていて自分でもできる。<br>した折り紙には興味をもたない。<br>メージに合わない。新しい材料への不安。）<br>のところに来てほしい思いを言葉で伝える。<br>ージ（お店の人の言葉）で呼びかけている。<br>金に見立てたやりとりができる。<br>やりとりができ、うれしいと感じている。<br>紙に見立てて使う工夫をしている。<br>ほしい、という思いを伝える。<br>や、遊びのなかの見立てを教師が受け止め、<br>れたうれしさを感じる。<br>した物でも、思いと違う物は拒否する。<br>使い方を知っていて、受け入れる。<br>いることに興味をもち自分もしたくなる。<br>と自分の場所がなくなるという不安がある。<br>確保する“おやすみ”の意味を知っている。<br>分の気持ちを受け入れ、手立てをしてくれたする。<br>味をもったことにかかわって動き出す。 | ◎場とのかかわり<br>・安定できる場であることを感じている。①<br>・自分の場がなくなる不安を感じている。⑮<br>・安心して遊んだことに満足し、自分から遊びの場を広げる。⑭⑯<br>◎教師とのかかわり<br>・教師が作ったきっかけを受け入れ自分から遊びはじめる。②⑮⑯<br>・教師に自分の気持ちを素直に言葉で伝える。②④⑧⑨⑪⑬⑮<br>・自分の思いが教師に受け入れられた喜びを感じる。④⑥⑩⑫⑯<br>・遊びを通して教師とのやりとりを楽しむ。④⑤⑥⑩⑫<br>・自分の思いにあった提案を受け入れて遊ぶ。②④⑥⑩⑯<br>・自分の思いにあった提案、使いたいと思った物だけを受け入れ、そうでないことははっきり拒否する。②⑧⑪⑬<br>◎物とのかかわり・イメージの表し方<br>・空カップや折り紙を見立てたりイメージしたりして遊びのなかに取り入れ楽しむ。②⑤⑩⑪<br>・お店屋さんのイメージをもって動いたり、言葉のやり取りをしたりする。⑤⑥⑨⑩<br>・お金を使ったやり取り、携帯電話など、知っていることや経験を遊びに生かす。⑩⑪⑬<br>・興味をもった物には自分からかかわる。②⑩⑬⑭⑯<br>◎他児とのかかわり<br>・自分の思いと違うことをする他児にかかわってほしくない気持ちを表す。③⑦<br>・教師がかかわることで他児とかかわる。⑥<br>・他児のしていることに興味をもつ。⑭ |

〔この事例から考えられる教師の役割〕

園生活に不安を感じている幼児が、自分から動き始められるようにするために

教師をよりどころに安心して自分の思いを出し、行動できるようにするために

こだわりをもっている幼児が自分のイメージや思いを表現しながら遊びの楽しさを味わえるようにするために

・自分から動き出せずに不安で泣いていた幼児が、周りの幼児や教師の動きを見ながら過ごせるようになった変化や成長を認めるとともに、まだ他児とのかかわりに不安を感じている気持ちを受け止め、自分だけで安心して過ごせる場や遊具を保障する。

・物とかかわる楽しさを感じるきっかけとなるような素材や遊具を提示し、興味や関心の表し方に沿った遊びの提案をする。

・自分のしたいと思っていることが十分にできる時間を保障し、安心感や楽しさを感じ、新たな遊具や遊びに気持ちを向け、自分から動き出せるようにしていく。

・幼児の表情や動きから気持ちの動きをとらえ、それにこたえる対応や具体的な言葉かけを通して、教師との心のつながりが感じられるようにする。

・幼児が自分の思いを表現できるような自由な雰囲気や状況を作る。

・教師がモデルになり、動き方や素材の使い方、友達とのかかわり方を伝え、物や人とのかかわりが自然に生じるような雰囲気や他児の中でも安心していられる場面をつくっていく。

・教師が一緒に遊ぶ中で、その幼児なりの思いを表現したり、遊びのイメージを広げたりするやり取りをして遊びの楽しさが感じられるようにする。

・幼児が自分の思いを自由に出して選択できるよう、その幼児なりの受け止め方を認める柔軟な姿勢で材料や素材を提示する。

・幼児の、今までの経験からのイメージや動きを引き出し、遊びが楽しめるようにしていく。

・その幼児なりのイメージや思いが表現できるような素材や材料を提示する。

・幼児なりに見立てたり、工夫したりしていることを認め、共感して受け入れ、幼児のイメージに添って一緒に楽しむ。

事例２　教師の動きをきっかけに、身近な環境に自らかかわる楽しさを感じていった事例

〔３年保育３歳児９月〕

教師とＢ児が砂場横に落ちているドングリを拾いに行く。それを見て、Ａ児はＣ児と一緒に「どこ行くの。」と聞く。ドングリを拾いに行くことを知らせると、二人は「私も行く。」と一緒に行く。

教師がドングリを拾うと、「見せて。」とのぞき込む。教師が「まだあるかな。」と探すと、三人も一緒に探し始める。それぞれドングリを見付けるたびに教師に渡しに来る。Ａ児も拾ったドングリを教師に渡す。

教師はたくさん集まったドングリを切り株の上に置く。それを見たＡ児が「わあ。」とのぞき込む。教師が「バーベキューですよ。」と言いながら、切り株の上でドングリを動かすと、Ａ児は「バーベキューだって。」と笑いながら拾ったドングリを切り株に乗せて焼くまねをする。Ｂ児、Ｃ児もドングリを動かし、「焼けました。」と教師に渡す。Ａ児も自分の焼いたドングリを教師に「どうぞ」と渡し、教師が食べる様子を見ると、またドングリを拾いに行く。

Ｂ児が持ってきたカップにドングリを入れて教師に渡す。教師はそばに落ちていた枝を拾って箸のように使いながら「おいしいね。」とドングリを食べるまねをする。Ｂ児は落ちていた松葉を拾い「これお箸なの。」と教師に見せる。教師は「Ｂちゃんのお箸はそれなんだ。」と答える。その様子を見て、Ａ児は枝を１本拾い、カップの中のドングリをかき混ぜながら教師を見る。Ｂ児は松葉ではドングリをつかむことができず、少し離れた所まで枝を探しに行き、見つけた枝を使う。

教師がレジャーシートを持って来る。Ａ児は「私が置く。」と教師からシートを受け取って切り株の横に敷く。Ａ児は靴を脱いでシートの上に座ったり、「行ってきます。」と言ってドングリや落ち葉を拾って持って帰ってきたりを繰り返す。

Ａ児が帰ってきたのを見て、Ｃ児は「お帰り、お母さん。」と声をかけ、「Ｃちゃんはお父さんなのね。」とＡ児に言う。それを聞いてＡ児が「ごはんを食べましょう。今日は誕生日なのね。」と言うと、Ｂ児、Ｃ児は「はい。」と答える。Ａ児はドングリのたくさん入ったカップを切り株の中央に置き、ケーキに見立ててろうそくを吹き消すまねをしたり、「食べましょう。」と二人に声をかけたりする。教師が「ケーキおいしいですか。」と聞くと、三人とも教師の方を見て「おいしい。」と言う。

＜考察＞

〔経験している内容〕

◎興味・関心

・教師や友達の姿を見て、ドングリ拾いに関心をもっている。

・興味の対象は、始めのドングリを集めることから、教師の動きをきっかけにドングリをごちそうに使う見立てへ、さらに教師のシートの提示によって友達と一緒に役になって動くことへと変化している。

◎物とのかかわり

・ドングリを焼く動作を繰り返すなど、見立てて遊ぶ楽しさを感じている。

・教師や友達の動きに興味をもち、自分で同じような枝を探し、自分なりの使い方をする。

・どんな枝が箸に使えるか分かって、枝の大きさや強さを考えて、教師に頼らず自分で探そうとする。（B児）

◎場とのかかわり

・教師の持ってきたシートを自分で敷いたことで、自分たちの場所という意識をもち、そこから出かける、戻って遊びの続きをするなど、安定して自分なりの動きを楽んでいる。

◎教師や他児とのかかわり

・教師のすることに関心を示し、今までの経験からも『先生は何か楽しいことをする。』ことを期待して自分からかかわっている。

・教師や友達のドングリを焼く、枝を箸として使うなどの動きを見て、おもしろそうだと思うと、それを自分なりの動きに取り込んで表している。

・C児に「お母さん。」と声をかけられたことで、自分なりに役としての動きをしながら友達とやりとりする楽しさを感じている。

・自分の言った『誕生日なのね。』という言葉をきっかけに、カップをケーキに見立てる、ろうそくを吹き消すなどのイメージを表現して友達に働き掛ける楽しさを感じている。

〔この事例から考えられる教師の役割〕

・ドングリを見立てて使う動きや、枝を箸に使う動きなどモデルになる動きをして、幼児が自分なりの動きをしながら、遊びに広がりをもつきっかけをつくる。

・幼児の発想や興味の変化を見取り、その時々のイメージにあった言葉をかけていく。

・レジャーシートなどを出すことで、自分たちが一緒に遊ぶ場所であることがはっきりと分かり、安定して過ごせる場を幼児と一緒につくる。

・友達と同じようなイメージで動くことを楽しいと感じるようになってきているので、友達と一緒ということを実感できたり、簡単なやり取りを楽しめたりするような言葉をかけていく。

・幼児が使いたいと思った物を自分で探し、同じような物がなくても教師に頼るだけでなく自分で工夫したり、努力したりしていることを十分に認める。（B児の姿から）

(2)　4歳児

事例3　興味をもった遊びの中で、友達とかかわりながら自分なりに動く楽しさを感じていった事例〔2年保育4歳児6月中旬〕

A児は、4両つながった段ボールの電車の一番前に乗り、まわりの幼児の動きを見ながら、保育室から廊下を通って1周し、教師のそばにくる。

教師が「電車が来ましたよ、お客さんはいませんか。」と言うと、三人の幼児が電車に乗る。教師が「運転手さん、お客さんが乗ったみたいですよ、出発ですか？」とA児に言うと、A児はにこにこしながら動かし始める。トイレの前でA児が小さい声で「えき。」と言うと、お客の三人は降りる。

B児が来て「山手線のせて。」と言う。A児は「いいよ、乗っていいよ。」と言い、自分は電車から降り、離れてB児の様子を見る。B児が電車から降りて、行ってしまうと、A児はまた電車に乗り、新しい客を乗せて何周か続けて運転する。

満員の電車にB児が無理に乗ろうとする。教師が「あわてんぼですね、Bちゃん、前の人が降りてからですよ。」と言い、A児に「乗っている人が降りるから、電車を下げて、とまりますって言わないとね、運転手さん。」と言う。A児は「はい、とまります。」と言う。誰も降りず、4人乗りの電車に5人が乗る。A児は「走れない。」と困ったようにつぶやく。C児が「本当は1人ずつなんだよ、こら」と後ろのB児に言うと、B児が「うるさい」とC児に言い返す。
A児は黙って電車を動かし続ける。

| A児 | C児 | B児・E児 | F児 |
|---|---|---|---|

しばらく電車で遊んだ後、A児は数人の幼児が机を囲み、いすに座って小麦粉粘土遊びをしているそばに行く。

A児は、教師から小麦粉粘土をもらう。空いているいすがあるが座らない。教師の近くに行き「いす持ってこようかな。」とつぶやく。教師が「いいわよ。あなたのいす持ってきたら。」と言うが、A児は動かない。教師が「空いているいすも座れるのよ。」と声をかけるが、そのまま立っている。教師が空いているいすを引いて促すとぐるっと周りを見回しながら座る。

A児は隣にいたD児をちらりと見てから自分の粘土を広げて伸ばす。A児がD児の顔をのぞき、笑いかけるがD児は特に反応しない。A児が粘土を机に押しつけながら、D児に「こっち向いて。」と言う。D児が「こっち。」と見ると、A児はにっこりと笑う。

D児が「かして。」と言いながら、A児が使っていた棒を取る。A児が「今、使ってるんだよ、返して。」とD児に言うと、D児は「えい、やっ。」と言いながら棒を上にあげる。A児が「返してよ、早く。」とD児に言うと、D児が棒をA児に返す。D児が外を見て「あっ、天気になった。」と言うと、A児は「雨やんできたね。」と答える。

＜考察＞

〔経験している内容〕

◎興味・関心

・段ボールの電車の運転手になって動く姿、小麦粉粘土へのかかわりなど、周りの環境に目を向け、関心をもってかかわりたい気持ちをもっている。

◎生活

・「出発ですか？」「止まりますって言わないとね。」などの教師の言葉かけで、遊びや生活に必要な言葉や動きに気付いている。

・小麦粉粘土に興味をもちながら自分から動けず、教師のはっきりした指示でようやく遊び始めるなど、安定できる雰囲気がないと自分から動き出せない。

◎人とのかかわり

・教師に運転手としての動きを認められることで、うれしさを感じ、教師への親しみを感じている。

・電車にお客が乗るとにこにこして動くなど、自分の遊びに友達がかかわることに楽しさを感じている。

・一方、相手によっては使っている電車をすぐに貸してしまったり、友達同士のトラブルがあってもかかわらない姿から、強いと感じている幼児や友達のトラブルに対して、どうしたらよいのか分からず、自分の思いを出せないこともある。

・D児に対しては、粘土遊びをしながら自分から働きかけ、好きな友達に対してはかかわりながら遊ぶ楽しさを感じている。

〔この事例から考えられる教師の役割〕

・A児が自分から動き出している姿を認めるとともに、いつも教師がA児のことを見守っていることを伝え、安定して動けるようにする。

・A児がしたいことを教師が受け止め、言葉にして返すことで自分がしたいことを意識づける。

・安心してかかわれる友達と過ごせる場や遊具、興味をもったことに安定してかかわれる場や時間を保障し、A児なりのペースで友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにする。

・遊びや生活に必要なことを具体的に知らせ、繰り返し経験させることで、自分から動けるようにしていく。

・様々な友達とのかかわりの場面を見逃さず、相手の気持ちを伝えたり、自分の気持ちの表し方を知らせたりして、徐々に安心して自分を出しながら友達とのつながりを感じられるようにしていく。

事例４　友達と一緒に自分のしたいことを十分に楽しんだ事例〔２年保育４歳児９月中旬〕

| 幼　児　の　姿 | 分 |
|---|---|
| ①登園してきたＡ児は、保育室の前の園庭で昨日したオシロイバナの色水遊びを他の幼児がしている様子をにこにこしながら見る。 | ①（環）昨日した色水遊びを他関心を示している。 |
| ②Ａ児はＢ児を誘い、色水遊びの材料や道具を設定した場所に、駆け寄る。 | ②（人）他児の姿を見て、昨日を誘って、自分から遊び始 |
| ③Ａ児が色水を作りながら「今日はいちごにしようかな。」と言うと、Ｂ児が「いいよ、ジュース屋さんね。」と答える。Ａ児は「うん二人のジュース屋さんね」と笑う。 | ②③（人）Ｂ児と一緒に遊びた<br>③（興）遊びの中で、したいこ |
| ④Ａ児は、ビニール袋に水と花を入れ、濃さを見ながら何度も指で押し「うわーきれい。」と言う。できると口を輪ゴムで止め、もう一つ作り始める。 | ④（興）素材の扱い方が分かっる。<br>④⑤（環）材料テーブルをよりている。 |
| ⑤Ａ児は、Ｂ児に「二人のジュース一緒にしよう。」と言って材料テーブルの上に一列に並べる。 | ⑤（人）Ｂ児と一緒に遊びたいる。 |
| ⑥テーブルに置いた袋を他の幼児が触ったり、押したりして中味が漏れ出す。Ａ児は困った顔をするが黙っている。 | ⑥（人）他の友達の動きに困惑ない。 |
| ⑦Ａ児が二人の色水を集めて一カ所にまとめようとすると、袋をとめた輪ゴムがはずれて色水がこぼれる。困った表情になり「ああ。」とため息をつく。 | ⑦（環）狭い場を使うために、たが、うまくいかず、困惑 |
| ⑧教師が「ちょっと触るとこぼれるね、二人のジュースこれに入れる？」と透明バケツを渡すとＡ児は「これがいい。」と袋の色水をあけ笑顔になる。「いっぱいだね。うわあ。」と言ってテーブルの上に置こうとして、そのはずみで他の素材を落としあわてて拾う。 | ⑧（人）教師が自分の気持ちを示してくれたことで、遊びきた。<br>⑧（環）自分のしたいことを実で利用する。 |
| ⑨教師が「テーブルもいるかな？」と別に小さいテーブルを出す。Ａ児は牛乳パック、カップ等を並べ「二人のジュース屋さんだね」と言い、泡たて器で赤い色水をかき混ぜる。 | ⑨（環）教師が新たに場を設定の場所のイメージがはっき<br>⑨（興）場が変わったことで、 |
| ⑩Ｃ児が、白粉で作った牛乳をケースに入れ、「牛乳屋さんだよ。」と押してくると、Ａ児はそれをもらい「混ぜちゃおうか。」と笑いながら泡たて器で混ぜる。 | ⑩⑪（人）友達の言動から遊び<br>⑪（興）自分なりのイメージでやりとりしたりすることを |
| ⑪透明カップをお盆にならべ、色水を入れ「いちごミルクだよ。」と言って「ゴクゴク。」と飲む真似をする。オシロイバナの花や葉を色水の上に浮かべ、ワゴンに並べ「ここ冷蔵庫なのね」と冷やすしぐさをする。 | ⑪（人）自分のイメージをＢ児しながら、かかわりを楽し |

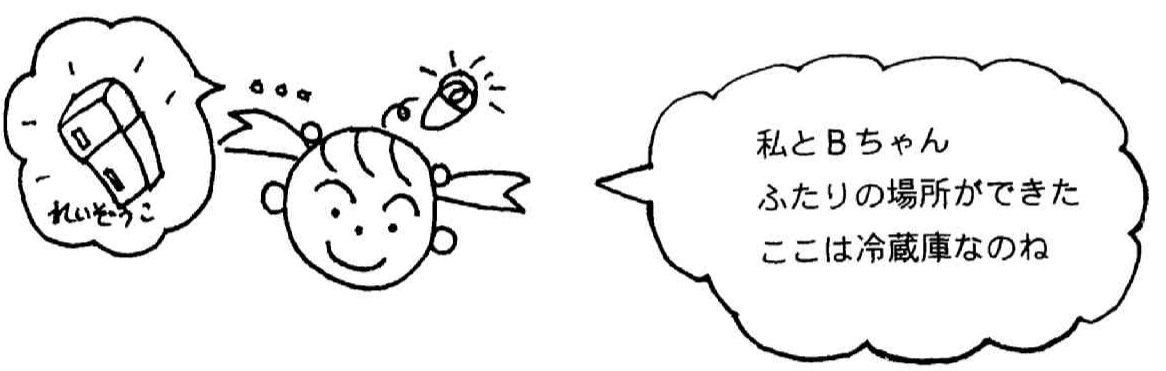
| 析 | 経験している内容 |
| --- | --- |
| 児がしていることに気付き、<br><br>の遊びの続きをしようと友達<br>めている。<br>い気持ちがある。<br>とがはっきりしている。<br>て、見通しをもって試してい<br><br>どころにして自分なりに動い<br><br>という気持ちで働きかけてい<br><br>するが気持ちを言動に表わせ<br><br>自分なりに解決の方法を考え<br>する。<br><br>分かってくれ、解決の方法を<br>への意欲を持続することがで<br><br>現できる物を提示され、喜ん<br><br>したことで、自分たちの遊び<br>りした。<br>イメージが具体的になった。<br><br>のイメージが広がっている。<br><br>作ったり、物や場を見立てて<br>楽しんでいる。<br>に伝え、自分のしたいことを<br>んでいる。 | ◎興味・関心<br>・したいと思う遊びが自由にできる道具、素材が目の前にあることで遊びへのきっかけを自分でつかんでいる。①<br>・先行経験を生かし、遊びに見通しをもって取り組む安心感を感じている。②③<br>・園庭の自然物を遊びの中に取り入れることで遊びの幅を広げている。③<br>・同じ遊びをする友達の言動を取り入れていくことで、遊びが膨らんでいくおもしろさを感じている。⑩<br><br>◎人とのかかわり<br>・一緒に遊びたい友達に思いを伝えていく心地良さを感じている。③⑤⑩⑪<br>・一緒に遊びたい友達の思いを受け止め、友達とかかわる楽しさを感じている。③⑧⑩⑪<br><br>・他児の思いがけない言動が受け止められず、困惑し不安な気持ちになる。⑥⑦<br>・魅力的な動きをする他児の言動を遊びに取り入れていく楽しさを感じている。⑩<br><br>◎環境とのかかわり<br>・教師の提示した道具を取り入れることで遊びを続けられるうれしさを感じている。⑧<br>・教師と一緒に自分たちの場を作る楽しさを感じている。⑨<br>・自分たちの場所でしたい遊びにじっくり取り組む安心感を感じている。⑨⑪<br>・自分たちの場所で自分なりの遊びをすることで遊びのイメージが膨らむおもしろさを感じている。⑨⑩⑪<br>・遊びの場が安定することで、自分のしたい遊びを十分したり、一緒に遊びたい友達とかかわる楽しさを味わっている。⑪ |

〔この事例から考えられる教師の役割〕

自分から環境にかかわって遊びを楽しむようにするために ⇨

遊びの中で自分なりの目的をもって、それを実現していくようにするために ⇨

一緒に遊びたい友達と一緒に、自分のしたいことが十分できるようにするために ⇨



・幼児が興味をもってかかわれる色水遊びの材料や用具を提示する。材料は園庭の草花など幼児が自分で見付けて利用できる物、容器は作った色水の色が見える透明の物などを工夫する。

・継続して遊びを楽しむ姿が見られるようになったら、数日間は保育室の前など目に入りやすい同じ場に環境を設定し、幼児が自分から繰り返し遊べるようにする。

・幼児の姿から、遊びの興味が色水を作ることから、作った色水を使ってジュース屋さんをすることに変化していることなどをとらえて、作った色水を集めることができる大きさの透明なバケツなどを提示することによって、幼児が今したいことが実現できるようにする。
その際、それぞれの幼児の技能に応じて提示する物を工夫する。

・同じ場にいても、それぞれの幼児の興味やイメージに違いがあることを受け止め、幼児同士がかかわりをもちながらも自分なりの目的を実現できるように、それぞれの幼児がしていることを教師が言葉で確かめ、目的に応じて自分たちの遊びが進められる場を確保できるよう新たなテーブルを提示するなどして環境を再構成する。

・直接のかかわりは少なくても魅力的な友達の言動を取り入れることで、遊びがより楽しくなることがあるので、学級の様々な友達の動きに目を向け、互いを認め合える雰囲気づくりを日ごろから心掛ける。

・一緒に遊びたい友達と場を共有して、それぞれが自分のしたいことを十分にすることで友達と遊ぶ楽しさを感じられるように、遊びの姿に応じて安定して動ける場や空間を幼児と共につくる。

・教師も仲間として遊びに加わり、物や場の見立てや遊びのイメージを言動に表わしたりして遊ぶ楽しさを共感していく。

(3)　5歳児

事例5　友達を受け入れながら自分の思いを実現していった事例〔2年保育5歳児6月〕

| 幼　児　の　姿 | 分 |
|---|---|
| ①A児は、数人の友達と新しく入ったいろいろなデザインのスカートを選び、はいているうちに、「お姫様ごっこ」をすることになる。 | ①（興）新しく用意された |
| ②A児は「お姫さまって馬車に乗るよね。」と大型ブロックの構成が得意なB児を誘い、二人で大型ブロックで馬車を作る。 | ②（興）お姫様から馬車をちをはっきりともった。<br>②（人）B児の得意なこと<br>②（環）大型ブロックの扱 |
| ③馬車ができるが、一人しか乗れず、動かすとすぐ壊れてしまう。A児は教師に「先生、どうすればいい？」と聞きに行く。 | ③（興）友達と一緒に乗れ通りの物を作りたい、<br>③（興）思い通りにならな |
| ④教師が、キャスター付の板と段ボール箱で作ることを提案する。A児たちはガムテープやはさみなどを準備し、教師の動きをしばらく見てから、板を押さえるなど自分で気が付いたことを楽しそうに手伝う。 | ④（人）教師ならなんとかる。<br>④（興）教師の動きをよくしている。 |
| ⑤お姫様になっていたC児（ちょっとしたことで泣くことが多い）が絵を描いて持ってくると、A児は「それはここに貼って。」と言う。 | ⑤（人）C児の動きを受け |
| ⑥乗り物にくわしいD児が、馬車作りに加わる。A児は馬車を引くひもをD児と一緒に探し、「D君は馬ね。」と役を決める。 | ⑥（人）D児の得意なこと拒まず、D児の動きを<br>⑥（人）自分の考えをはっ |
| ⑦馬車ができると、みんなでテラスを走らせる。「二人ずつ交替で乗る。」というルールができ、交替して馬車に乗る。 | ⑦（人）遊びのルールを友いる。<br>⑦（環）キャスターはテラる。 |
| ⑧C児が順番に関係なく乗ろうとする。A児は穏やかな声で「Cちゃんは次だからね。」と声を掛ける。 | ⑧（人）C児の泣くことが安にならないよう、C |
| ⑨馬車を見て、4歳児が「乗りたい。」と集まってくる。A児は「じゃあ、あっちで待っていてね。」と待つ場所を示し、順番に乗せる。 | ⑨（人）自分たちの遊びを歳児には優しくしよう |
| ⑩次々に4歳児が並び、長い列ができる。しばらくして、A児は「私たちがあんまり乗っていないのに、年少さんがいっぱい乗りたいって言うの。」と大きな声で泣きながら教師の所へ行く。 | ⑩（人）予想以上に4歳児分たちが乗れるか不安<br>⑩（人）4歳児には優しくちも乗ることを十分楽い。 |
| ⑫教師が「今度乗せてあげるねって、断ってもいいんだよ。」と言うと、A児は馬車の所に戻って、4歳児に「明日、また乗せてあげるね。」と言う。4歳児がいなくなると、自分たちの仲間で交替しながら、繰り返し乗って遊ぶ。 | ⑩（人）自分たちで解決で<br>⑪（人）断り方が分かったたちの遊びに集中し、 |

| 析 | 経験している内容 |
| --- | --- |
| スカートから遊びのイメージをもつ。<br>連想し、馬車を作りたいという気持<br><br>を知っている。<br>い方を知っている。<br>るしっかりした馬車というイメージ<br>という気持ちが強い。<br>いが、なんとか作り上げたい。<br>してくれるという期待感をもってい<br><br>見て、自分のできることはしようと<br><br>入れている。<br>を知っていて、遊びへのかかわりを<br>取り入れている。<br>きり伝えている。<br>達と共有して、それに従って遊んで<br><br>スだと動かしやすいことを知ってい<br><br>多いことが分かっていて、C児が不<br>児の気持ちに添った対応をしている。<br>認められたことに優越感を感じ、4<br>という気持ちがある。<br>が多く来たので、いつになったら自<br>になる。<br>しなければという気持ちと、自分た<br>しみたいという気持ちを調整できな<br><br>きないので、教師に解決してほしい。<br>ことで、それを伝え、安心して自分<br>友達と一緒に遊びを楽しむ。 | ◎興味・関心<br>・自分たちのしようとすることがはっきりしている。②⑦<br>・思い通りにならなくてもあきらめず、試行錯誤しながら作ろうとする。④<br>・教師の動きを見て、見通しをもつ。④<br>・しようとしたことを実現した満足感を感じる。⑦⑪<br>◎環境とのかかわり<br>・新しい環境から遊びのイメージをふくらませる。①<br>・経験を生かして、材料や場を選ぶ。②⑦⑨<br>・目的に応じて必要な物が分かり、自分たちで準備する。④<br>◎教師とのかかわり<br>・自分たちで解決できない問題の解決を教師に求める。③⑩<br>・教師の動きから、自分たちでできることを考えて、自分から動く。④<br>◎友達とのかかわり<br>・自分のしたいことを実現できる友達を誘う。②<br>・一緒に遊んでいる友達に思いや考えを伝えながら、イメージを重ねたり、遊びのルールを作る。①②⑦⑨⑪<br>・遊びにかかわってきた友達に思いや考えを伝え、相手のことをよく分かって動きを受け入れる。⑤⑥⑧<br>・4歳児のことを受け入れようと対応する。⑨<br>・4歳児の要求と自分たちのしたいこととの調整ができず困惑する。⑩<br>・自分の思いを受け入れられたことを感じる。⑤⑥⑪<br>・自分たちの遊びを認められた喜びを感じる。⑨ |

〔この事例から考えられる教師の役割〕

環境にかかわって自分たちで遊びのイメージを実現していくために

・作りたい物のイメージをはっきりもっていても、実現できそうにない場合は、困難な点を見極め、様々な方法があることを知らせていく。
・どこに問題があるかに気付くような言葉をかけたり、これまでの経験を生かして自分たちで進められる新しい方法や材料を提示したりして、次からは自分たちで解決できるようにする。

様々な友達のよさを受け入れながら、一緒に遊びを進めていけるようにするために

・一緒に遊びたい友達、互いの気持ちや動きを受け入れられる友達とのつながりを生かしながら、友達とのかかわりを広げていく。
・遊びや生活の中でそれぞれの幼児のよさが発揮されている姿をとらえて、他の幼児も気付くように伝えていく。
・自分のしたいことを実現していくためには、どのように表現したら相手に受け入れられるか気付けるように、相手の気持ちに添ったかかわりをしている姿を認めていくとともに、自分の思いや考えが受け入れられた喜びに共感する。
・教師も遊びの仲間として参加し、友達の思いや考えを受け止めたり、認めたりすることで、遊びが楽しくなっていく姿に共鳴する。

葛藤やつまずきを乗り越えて、友達と一緒にやり遂げた満足感を味わわせるために

・イメージを実現できないでつまずいている場面では、自分たちで遊びを進めていこうとする意欲を受け止めた上で、実現したいイメージと先行経験や現在の技能とを見定めて、自分たちでできる方法や材料を提示したり、必要な援助をしたりする。
・他の幼児（4歳児）がかかわってきたことで、自分たちの遊びが進められない場合は、自分たちで解決できないことへの困惑した気持ちを受け止め、安心して自分たちの遊びを楽しむための解決の具体的な提案をする。その際、「明日は年少さんも大喜びだね。」など、他の幼児を拒否していないことを認める。
・自分たちのイメージを実現して遊びを楽しんでいる姿を認め、遊びやすいように場を選んだり、順番を決めて交替するなど遊び方を考えたりしたところを取り上げ、自分たちでやり遂げたという満足感を十分に味わわせる。

事例６　自分のよさに気付いて自信をもち、友達と一緒に遊びを進めた事例

〔２年保育５歳児１０月〕

Ａ児は、これまで自己主張が強く、遊びの中で友だちを思い通りにしようとして、いつの間にか仲間がいなくなってしまうことがあった。

Ａ児を含め３人の男児が、ラインサッカーを始めようと学級の友達に声をかける。しかし、なかなか友達が集まらず、教師に相談に来る。教師は大勢でやりたい気持ちを受け止めた上で、「硬いボールだといやな子もいるかもしれないね。それにまだ自分のしたいことがあるんじゃないかな。」と答える。

Ａ児は柔らかいボールを使うことを提案し、他の遊びをしている友達には「終わったら来てね。」などと働きかけ、教師に大勢が集まりそうなことを笑顔で報告に来る。教師は「よかったね。友達がいっぱいいる方がおもしろいよね。」と答える。

Ａ児たちが園庭に出ると、誘われた幼児もボールや得点板を持っていつもサッカーをする場所に集まり、それぞれにボールをけり始める。Ａ児はチームを決めようと声をかけるが、それぞれの幼児が自分の考えを言い、なかなか決まらない。

Ａ児が困った顔で教師を見ると、教師は「こまったねえ。」とつぶやく。Ａ児が「おれが決めていい？」とみんなに声をかけると、他の幼児も集まってくる。Ａ児は、サッカーがあまり得意でない友達を自分のチームに入れるなど、両チームの力が同じぐらいになるようにチーム分けをする。

ラインサッカーが始まると、どの幼児もボールを止める、ける、ゴールをねらうなどそれぞれが一生懸命に動く。柔らかいボールを使ったのでけりやすくなり、キック力の弱い幼児もゴールを決める。教師は、それぞれの幼児の動きを見ながら、「ナイスキック。」「ナイスゴール。」などと声をかける。

Ａ児はゴールキーパーになると右に左に走ってボールをとる。他児が「Ａ君すごい。」と言うと、教師もＡ児に「今日の動きは一段といいね」と声をかける。Ａ児は自分のチームが負けてくると、「キーパー代わって。」と言って他児と交替し、ゴールをねらう。Ａ児は自分が動きながら、他児の動きを見て「○ちゃんボールを止めるのがじょうずだね。」と自分のチームの幼児に声をかける。どの幼児もますます張り切って動く。

試合が終わると「Ａ君すごいね。Ａ君と同じチームになりたい。」と友達に言われ、恥ずかしそうにしながらも満足そうな表情を見せる。

「みんなでやって、ラインサッカーとっても楽しかったね。」と教師が話しかけると、Ａ児は「うん、もう１回やろう。」と息を弾ませながら友だちを誘う。

〈考察〉

〔経験している内容〕

◎興味・関心

・A児は、大勢の友達と一緒にラインサッカーを楽しみたい、というはっきりとした目的をもっている。

◎生活

・得点板・ボールなど遊びに必要なものを自分たちで用意し、遊びの進め方が分かって自分達で遊びを進めようとしている。

・A児は、教師の助言によって、友達の誘い方、待つなどのタイミングに気付いている。

◎環境とのかかわり

・ラインサッカーをする場所が学級の中で定着し、参加したければそこに行けばよいことが分かっている。

・これまでの遊びの中で、ボールの固さによって飛ぶ距離が違うことを知っている。

・それぞれの幼児がサッカーのルールを理解し、ボールをける、追いかける、止めるなどの自分なりの動きを楽しんでいる。

◎人とのかかわり

・これまで自己主張が強く、友だちを思い通りにしようとして仲間が離れていった経験のあるA児が、「大勢の友達と一緒に楽しみたい。」という気持ちを強くもち、友達に参加してもらうための誘い方や遊びを円滑に進めていくための働きかけ方などをどのようにすればよいか教師の援助を得ながら気付き始めている。

・A児は、友達と一緒に遊びたい気持ちを教師に伝え、受け止められたことが心の支えとなり、遊びへの意欲を持続して自分なりに考えて友達に働きかけている。

・A児は、教師が友達を励ましている様子を見て、それをモデルとして友だちにアドバイスしたり、友達の動きを認める言葉をかけ、友だちのよさを言葉で相手に伝えることでみんなが楽しくなることを感じ取っている。

・友達と一緒に楽しく遊びたいという思いを実現し、教師が共感することで、友達とのつながりを感じ、自信をもって友達と遊びを進めようとしている。

［この事例から考えられる教師の役割］

・友達とのかかわり方の課題をA児自身の力で解決していかれるような助言をし、自信をもてるようにする。

・大勢の友達と一緒に遊びたいのに、なかなか参加してくれないといった幼児の欲求と現実との葛藤の内容を的確に読み取り、相手の状況に添って誘うなどの具体的な手立てを助言し、幼児自身が解決し自己実現できた充実感を得られるようにする。

・A児だけでなく、他の幼児にも遊びの満足感を得られるようにすることが、A児の自己実現につながっていくことから、それぞれの幼児が夢中になって遊べるような励ましの言葉やルールの確認、動きを認める言葉などをかけていく。また、そのような援助が、友達と互いのよさを認め合えるモデルとなるようにする。

## Ⅲ　まとめと今後の課題

### 1　幼児が夢中になって遊び、自信をもって行動するための教師の役割について

事例を分析・考察した結果、3ページにも述べたように幼児は次のような過程を経て、夢中になって遊ぶ中で自信をもって行動していくようになることを確認した。

幼児は興味・関心をもったことに自分からかかわって遊び出し、その幼児なりの目的をもって遊ぶ中で、実現する喜びや葛藤などいろいろな体験をしながら遊びが充実していく。そして、満足感や充実感を味わい、自己肯定感・自己有能感をもち、新たな意欲をもつようになる。こうした経験を積み重ねていく中で、幼児は様々な課題を乗り越え自信をもって行動できるようになる。

そこで、教師はその幼児の発達に必要な経験を見極めながら、幼児自ら課題や目的を見付け、乗り越える力を身に付けていけるような援助をしていくことが大切である。教師の役割として次の三つの項目にまとめた。

**◎幼児が自分から遊び出していくようにするための教師の役割**

o 幼児が安心して自分を出せるように、まず教師との信頼関係をしっかりと築く。
　特に、幼児が緊張感や不安感をもつときには、ありのままの姿を受け止め、不安な要素を取り除き、安心感がもてるものを一緒に探すなど、幼児の心に寄り添う存在としての援助が必要である。

o その幼児にとっての環境のもつ意味を探り、教師の動きや他児との関係・空間・雰囲気など、安心感のある環境を保障し、幼児が自ら環境に働きかけていく姿を待つ。
　幼児の心の動きを把握し、励まし、認める教師の受容的なかかわりが、幼児の自分から環境に働きかけようとする気持ちを支える。体は動き出さなくても、周りの様子を見て心を動かしている姿を受け止め、共感していく教師の姿勢が大切である。

o 幼児は、以前に経験して楽しかったことやよく知っている内容には、安心感をもって自分から動き出すことが多い。そこで、前日までの遊びの理解と予想に基づいて、先行経験を生かせるように材料・素材・遊具・場など環境を構成する。

o それぞれの幼児の思いやイメージに応じて、新しい材料や素材を提示する、遊びの場に変化をもたせるなど、幼児がやってみたいと思うような魅力的な環境づくりをする。
　特に、遊びの中で楽しい雰囲気をかもし出す教師自身の動きや言葉が重要な環境となる。

**◎幼児が遊ぶ楽しさを感じ、遊びが充実していくようにするための教師の役割**

o 一人一人が自分の思いやイメージを出し、その幼児なりのペースでじっくり繰り返し楽しめるように時間や場を保障する。

o 特に3歳児や4歳児には、教師が一緒に遊びを楽しむ中で、場の作り方や使い方・新しい用具や材料や素材などの使い方などを知らせる、幼児のイメージを受け止め、なりきって動いたり見立てたりするなど、遊びがより楽しくなる援助を工夫する。
　幼児が自ら必要なものを選んだり、考えたりできるように環境を構成していくことが大切である。

o 幼児の環境にかかわって遊ぶ姿から興味・関心をとらえるとともに、遊びを進める中で変化していく興味・関心に応じて、柔軟に環境を再構成していく。

また、幼児が楽しんでいることに教師が共感し、認める言葉をかけることで、幼児は遊びの意図や目的をはっきり意識するようになり、目的を追求していく中で遊びがより楽しくなっていく。

o 幼児が遊びの中で目的を実現する喜びを感じていくように、一人一人の幼児の思いを汲み取り、必要な技術的な援助やヒントとなる言葉がけをし、励ましたり認めたりしながら、できた喜びに共感していく。

小さなことでも、遊びの中で一つ一つ実現できた経験を積み重ねていくことが大切である。

o 友達と互いに思いを出し合い、受け止め合い、刺激を受け合うかかわりが、遊びを深め、広げていくので、教師は一人一人の幼児の動きや言葉を認め、幼児が自分の思いを出す楽しさや受け止められる喜びを感じていけるようにする。

さらに、自分の考えを出すだけでなく、相手の話を聞き、一緒に進めていくことで遊びの楽しさを味わう経験ができるように援助をする。

o 幼児は遊びの中で様々な経験をする。問題となることが起きたとき、その幼児にとっての意味を考え、遊びの充実や幼児自身の成長につながるようにしていく。

問題解決のモデルとして教師の動きを示したり、問題がどこにあるか気付かせる言葉をかけたり、解決のヒントを知らせ乗り越えていく過程を見守ったりして、幼児が自分の力で課題を乗り越えていけるようにする。

幼児の欲求と現実との葛藤の中での心の動きをとらえ、認め、励ましていく教師の存在が大切である。

**◎幼児が満足感を味わい、自己肯定感や自己有能感を感じて、新たな意欲をもてるようにするための教師の役割**

o 自分なりの目的を実現した達成感や満足感に共感し、自分のよさを感じていけるように、遊びの中での幼児の努力や工夫など十分に認める。

また、幼児が遊びの中で経験したことを、自分の成長として気付いていけるように、言葉にして伝えていくようにする。

o 学級の中で一人一人が自分の力を発揮し、互いに認め合える関係をつくっていくために、課題を乗り越えようとしたり、思いを実現するために葛藤したりする友達の真剣な姿に目を向けるよう言葉をかける。

そして、友達の成長を感じ、互いに相手のもつよさを認めて生かしていくような雰囲気や機会・場面を意識してつくっていく。

こうした援助の積み重ねによって、幼児は次第に友達とのつながりの中で、周りの状況を受け止め、自分らしさを発揮し自信をもって行動することができるようになる。

## 2　今後の課題

研究を通して、幼稚園生活において教師は幼児の発達に応じて広範かつ様々な役割を果たすことが必要であり、またそれが幼児の発達を促す上で重要な意味をもつことを改めて確認できた。今後は、本研究の成果を生かして実践を積み重ねていく中で、それぞれの園の実態に沿った具体的な教師の役割をさらに追究していきたい。